

新年に寄せて

コロナに打ち勝って 安心な年を迎えよう！

過ぎ去った 2020 年は、台風 19 号などの自然災害に見舞われた 2019 年に続いて、負の意味で世界の歴史に刻み付けられる一年となりました。日本を含めた全世界が新型コロナウイルス感染禍に見舞われ、国際的な人的往来が極端に制限され、国内の社会的様相も一変してしまいました。予定されていた東京オリンピック・パラリンピックが 2021 年に延期され、中国の習近平国家主席の来日も中止となりました。

日中学院も 3 月の卒業式は規模と時間を短縮して実施しましたが、4 月に入ってからは入学式も中止し、5 月連休明けまで休校にしました。その後徐々に授業を復活させ、7 月には別科の「10 - 12 月期」の学生募集も行いました。2020 年下半年には日中学院のすべての科目を再開し、粛々と授業を行ってきました。また、教室授業以外に、初めてオンライン授業を一部科目に導入しました。

しかしコロナ感染を防ぐため、中国との出入国が制限され、中国からの留学生の来日も 11 月までは止まってしまいました。都内見学、合同合宿、朗読大会なども中止せざるを得なくなりました。本科生の北京短期留学、別科生の天津短期研修は中止となり、恒例の秋の文化祭も規模を縮小し、本科生・日本語科生の学習発表会という形で実施しました。

12 月になっても新型コロナウイルス感染者数は減少せず、冬のインフルエンザ流行時期と重なってしまいました。こうした状況の中で 2021 年を迎えるわけですが、日中学院としては全教職員及び全学生が協力して新型コロナウイルス感染に打ち勝って、安全安心な新年を迎えたいと思います。2021 年こそは学習活動においても、社会見学、合宿、ホームステイ、短期留学といった行事においても、安心して充実した学院生活に戻れることを切に願っています。日本だけでなく、中国、朝鮮半島を含めた極東地域が安全に往来できる環境を回復できることを願います。

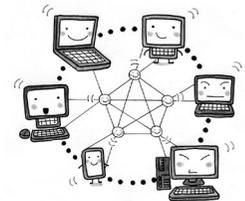
今年の干支は牛。魯迅の言葉「横眉冷对千夫指、伏首甘為孺子牛(大勢の人の指弾には毅然と立ち向かい、人民大衆のためなら喜んでその役に立ちたい)」を添えて、年頭のあいさつとします。

2021 年元旦 日中学院 学院長 片寄浩紀



2020.12 日本語科小石川後楽園散策

A 先生の新語コーナー



qū kuài liàn “区块链”

ブロックチェーン。ネット上の多くのコンピュータに処理を分担させるやり方。分散型ネットワーク技術。ブロックは情報をまとめて暗号化したもので、これがチェーンのようにつながっていくことで改ざんを防ぐ。中国ではこの技術がデジタル金融、モノのインターネット (IoT) など多くの分野に応用され、検討中の法定デジタル通貨にも使われる見通し。習近平氏は「ブロックチェーンの標準化に力を入れ、国際的な発言権を高めなければならない」と述べている。(A)

おうち時間で映画を

コロナ禍で、不要不急の外出を控えている方が多いと思います。何となく憂鬱なおうち時間を少しでも楽しく過ごしていただくために、今回は図書室所蔵のDVDを3点ご紹介いたします。



1. 『花木兰』

(2009年 中国語字幕)

監督：马楚成

主演：赵薇、陈坤、胡军

主人公『花木兰』は、年老いて病気がちな父の代わりに男装して戦場に赴き、活躍して大將軍にまで登りつめ、故郷へ錦を飾ったとされる伝説上の女性。

この物語は中国では中学校の教科書に採用され、結構長い文を丸暗記させられ閉口した当校の先生もいらっしゃるほど、皆に親しまれているとのこと。

ディズニーのアニメや昨年話題になったハリウッド映画『ムーラン』で日本でもお馴染みようですが、今回ご紹介するのは2009年の映画。悲惨な戦場での温かい人間模様、木兰の戦士としての成長や切ないラブストーリーを中心に、多くの要素をぎゅっと詰め込んだ秀作。

戦闘シーンも多く、色調は暗く華やかさはありませんが、主演を務める赵薇と陈坤の抑えた演技に納得。

2. 『畫皮』

(2008年 中国語字幕)

監督：陈嘉上

主演：赵薇、周迅、陈坤、甄子丹、孙俪



清代の妖怪短篇小说集『聊斋志异』の中の一話を改編したホラー・ロマンス・アクション映画。

將軍・王生（陈坤）は戦場から若くて美しい女・小唯（周迅）を故郷へ連れて帰る。王生を愛してしまった狐の妖怪小唯、王生とその美しく聡明な妻・佩蓉、またかつて佩蓉を密かに愛していた今は流浪の士・庞勇（甄子丹）と少女夏冰（孙俪）などが愛憎劇を繰り広げる。

赵薇、周迅が妖艶で美しく文句の付け所がない。また今を時めく孙俪がキュートな役柄と演技で重苦しい作品に彩りを添えている。



3. 『畫皮』II

(2012年 中国語字幕)

監督：乌尔善

主演：赵薇、周迅、陈坤、杨幂、冯绍峰

『畫皮』の続編。人間を救った罪で懲罰を受け、氷地獄に500年封印されていた妖怪・小唯（周迅）は、妖魔・雀兒（杨幂）によって救出され逃げる途中、熊に襲われ顔に傷を負い黄金のマスクを付けている靖公主（赵薇）に会い、白城に連れて行かれる。

公主は護衛・霍心（陈坤）を愛しているが、傷を負わせた責任を感じている霍心は素直にそれに応えられない。この二人の間に小唯は付け入り、妖怪から人間になるべくある策を公主に持ちかける。

この映画でも、今や引く手数多の杨幂と悪魔祓い役の冯绍峰の存在が爽やかな雰囲気を出している。

*

*

新着図書は階段の掲示板をご覧ください。

今年度は、規模を大幅に縮小して2020年10月31日に日中友好会館の地下大ホールにて新型コロナウイルス感染対策には十分注意し学習発表会という形で文化祭を行いました。

文化祭

本科2年 岩本 弘明

今年度はコロナウイルスの蔓延という異常事態に遭遇し、多くの学校行事が中止となる中、文化祭が学習成果の発表・交流という形で実施できたことは意義深い。

第一は、日中学院生としての一体感を共有したことである。ネット授業の中で孤立してきた同学が共同作業を行い、学科・学年を超えて学習成果の発表・交流を行ったことで、仲間と一緒にという意識を持つことが出来た。

第二は、実施内容について、安全対策をとりながら従来の水準を維持できたことである。演目数は限られたが、日本語科の日本語劇は、そのままどこか会社で勤務可能と思えるほどの流麗さで、今年もびっくりさせられた。本科1年は中国語吹き替えと少数民族衣装のファッションショーという豪華版二本を仕立て、本科研究科と2年は、屈原から林則徐につないだ中国詩絵巻でフィナーレを飾った。

第三は、文化祭という伝統行事を継続できたことである。太極拳の演武は学習成果の発表に文化祭という彩を加える一方で、本校卒業生・職員の参加により、在校生・校友・職員の全員参加という伝統も引き継ぐことが出来た。

中国詩絵巻で紹介された林則徐は、流刑に等しい扱いを受けながらも水路の開削といった民生に邁進したが、その姿は、現在コロナという逆境の中にある私達になすべきことをなせというエールに違いない。

最後に、例年なら文化祭委員会を中心に進められる事前の準備や当日の会場整備等は、コロナ対策に万全を期し、学習成果の発表を行うということで、多くを教職員の皆様にご負担をいただいた。

心より感謝をいたします、ありがとうございます。



文化祭

2年1組 鄒 露漪

秋も深まり、街路樹の葉も黄色くなり、空も澄み渡り、過ごしやすい季節を迎えた。

さて、日中学院の今年度の文化祭が始まった。世界中の人にとって、今年は難しい年だった。世界中に広がっているコロナのせいで、経済を成長させられなく、失業率が高まったので、人々の生活が難しくなった。感染を拡大させないために、学校はいろいろな活動をやめなければならなく、とても残念だった。文化祭が行われることは、二年生の私たちにとって、とても嬉しいことだ。この文化祭は最後の文化祭だから。

私のクラスは『よだかの星』を朗読することに決めた。初めて読んだとき、感動して、完璧に朗読しようという欲が強くなってきた。そして、文化祭本番は一番いい状態で朗読できた。



10月生の『白雪姫』もとても面白かった。特に男性が白雪姫を演じたことが、頭の中に深く残っている。

中国語科のパフォーマンスもすばらしかった。太極拳、民族衣装のファッションショー、古詩朗読など。太極拳は剛と柔が表現できていた。民族衣装のショーでは、さまざまな服を見て、思わず感嘆の声をあげた。古詩朗読も私をびっくりさせた。朗読された詩は中国人にとっても難しいので、日本人がこんなに上手に朗読できるなんて、本当にすばらしいと思った。

今回の文化祭はとても楽しかった。パフォーマンスによって、中国と日本の文化が交流できて、両国の文化も深く理解できた。もし機会があれば、来年の文化祭も参加したい。

文化祭

2年1組 李世龍

今年の10月31日、学校で文化祭が行われた。各クラスは準備した演目を公演した。活動時間は長くないが、みんなとても楽しんでた。

去年も文化祭に参加した。その時は、みんなで自分の得意な料理を作って売ったり、他の人の得意な料理を食べたりした。その日、私も友達もお腹がいっぱいだったのを覚えている。今年のコロナは残念ながら、安全のために文化祭が短くなった。不完全だったが、久しぶりの楽しいイベントだった。

今回の私のクラスの出し物は朗読だった。一か月前ぐらいから練習を始めて、最初はみんな、読むのが熟練していなかったが、だんだん流暢になってきた。本番では、面白いことがあった。普段は声の大きいクラスメイトの声が小さくなり、逆に声の小さいクラスメイトの声が大きくなった。でも、みんな楽しんで朗読できた。一番印象に残ったのは、中国の少数民族の服が見られたことだ。その中には、知らない服もいくつかあった。

今度の活動は食べる楽しみがなかったけど、リラックスできた。この機会を通じて、日中両国の人はお互いの歴史をよく知ることができた。これが最大の収穫だと思う。文化交流を通じて、両国民の関係をよりよくすることができる。学校でもっと多くの類似のイベントを開催してほしい。

○ 5回完結授業が始まります！ 2月13日(土)から順次開講

5回完結1時間授業は、約1か月の期間の授業です。学費もお手頃で気軽に受講して頂ける講座です。

お試し中国語、中国語の食文化、やり直し発音など多数のクラスを開講します。

一部オンライン講座を開講予定です。詳細は、別途チラシをご覧ください。

○ 本科研究科の授業が、 一部オンラインで受講できます！

研究科はすでに中国語の応用力を備えている方で、将来、通訳・翻訳者を目指す方などを対象とした1年制の専門課程です。全科目履修の難しい方を対象として科目履修も受け付けています。2021年4月より新たに、一部ZOOMによるオンライン授業として開講します。

遠方の方でも、オンラインなので受講いただけます。専任講師による詳しいカリキュラムの説明も承っております。

お問合せ TEL : 03-3814-3591
HP : www.rizhong.org

学院長の思い出話24 (最終回)

正直に生きたい

日中関係は国交正常化以後基本的には良好な状態を維持していましたが、歴史問題のために、突然関係が悪くなったりする時期もありました。

1996年7月のある日、私は北京日壇公園で中国人の先生に中国拳法を習っていました。当時の首相であった橋本龍太郎氏が自身の誕生日に靖国神社へ参拝しました。拳法の練習をしているとき、一人の中国の若者がきて、「貴方は日本人ですね？首相が靖国神社に参拝したことについてどう思いますか？」と言いました。拳法の先生が突然、その若者を叱りつけました。「この人は私の友達で、今、拳法の練習中だ。ここはそのような類の質問をするのにふさわしい場か？」先生はごく普通の人であったが、「もしも反対の立場であったら、私も先生と同様の態度を取れたらどうか？」と考えさせられました。

2010年の5月、私は頭を丸坊主にしました。「今までも、そしてこれからも正直に生きたい」ということを自分自身に言い聞かせるために。

(片寄浩紀・最終回)